

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2395600055		
法人名	社会福祉法人 博寿会		
事業所名	グループホーム とびしま		
所在地	愛知県海部郡飛島村大字服岡四丁目4-1		
自己評価作成日	令和5年 11月22日	評価結果市町村受理日	令和6年4月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・職員がご利用者に笑顔と思いやりの心で接している。 ・ご利用者に買い物や喫茶店などに出かける機会を定期的に提供している。 ・ご利用者に歩行訓練などのリハビリを提供している。
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&Jigy_osvoCd=2395600055-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和5年12月18日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当ホームの運営母体が医療機関でもあることで、医療面での定期的及び随時の医療面での連携が行われており、利用者の健康状態に合わせた柔軟な支援が行われている。地域の方との交流が困難な状況が続いているが、ホーム内の利用者から離れた場所に専用の交流スペースが設けられていることもあり、認知症カフェ(ゆったりカフェ)の取り組みが行われており、地域の方にホームを知ってもらおう機会につなげている。当ホームは、1ユニットのホームである利点も活かしながら、日常的に職員間で意見交換等が行われており、管理者が把握した職員からの意見をホームの運営に反映したり、業務改善につなげる取り組みが行われている。また、非常災害に関する取り組みについても、関連事業所に避難する取り組み等、水害を想定した協力関係が作り、利用者の安全の確保が行われている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「笑顔と思いやり心」でご利用者に接することを職員で共有している。	ホームの基本理念を職員による支援の基本に考えながら、日常の支援を通じて職員間で理念に合わせた支援を行うような意識向上が行われている。管理者をはじめ、勤務年数の長い職員が多く、日常的に理念の実践が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	村の行事への出席、近所のお店や喫茶店に出かけて地域住民と交流している。	地域の方との交流については、感染症の状況もみながら徐々に交流を再開しており、地域の方にホームを知ってもらう機会につながっている。認知症カフェの取り組みも再開しており、地域の方の参加が得られている。	地域の方との交流が徐々に再開している段階でもある。ボランティアの方の受け入れや関連事業所との交流等、今後に向けたホームの取り組みにも期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	定期的に認知症カフェ(ゆったりカフェ)をホームで開催して認知症について話をする場を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を年に6回開催してそこでの意見や評価をホームの運営等に活かしている。	会議については、利用者と離れた場所に交流スペースが確保されていることもあり、対面方式での会議を継続している。会議に市町村職員の参加も得られており、定期的な情報交換等の機会にもつながっている。	現状、家族の参加が行われていないこともあるため、今後の状況もみながら、家族の参加に関する働きかけにも期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	メールや電話で互いに連絡を取り、協力関係を築いている。	当ホームは、村内で唯一のグループホームでもあることで、市町村担当部署とは定期的及び随時の情報交換等の取り組みが行われている。市町村の福祉施策にも委員として協力する取り組みも行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないという意識で職員は業務に取り組んでいる。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、ホーム内を利用者が自由に移動することができるように、職員間で連携した見守りが行われている。身体拘束に関する定期的な検討や職員研修を実施し、職員の振り返りの機会につなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修動画サイトにて各職員は学ぶ機会を持ち、防止にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修動画サイトにて各職員は学ぶ機会を持ち、権利擁護の制度を理解し、それらを活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ご家族との契約でご家族の疑問や不安を取り除くことができるように丁寧な対応を実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご利用者からは随時、意見を聞き取り、ご家族からは面会時等に意見や要望を聞くようにしている。	現状、家族との交流が困難な状況が続いており、面会の実施等、可能な範囲で交流が行われている。利用者や家族からの要望等については、管理者が把握し、運営法人の幹部職員に報告している。また、ホーム便りの作成が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1回グループホーム内で職員会議を開催して職員から意見を聞く。それを反映させている。	定期的な職員会議の他にも、1ユニットのホームである利点も活かしながら日常的にも意見交換が行われており、管理者を通じてホームの運営に反映する取り組みが行われている。随時の面談の機会もつくりながら、職員一人ひとりの把握につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	努めていると思われる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	各職員に合った研修を紹介したり、PCやスマホで動画を見ながら研修を受けることができている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	頻繁に交流は無いが、季節ごとの行事で交流したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所間もない期間は、ホームの雰囲気に慣れていただく事を念頭に置き、職員から積極的に声をかけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご本人から聞き取ることが出来なかった事柄などを改めてご家族から聞き取るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご利用者・ご家族の要望・意見を詳しく聞き取り、サービス計画書に反映させている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご利用者を人生の先輩として接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご本人を支援するためご家族と良好な関係を築き、その関係を継続している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	外出時に地元の喫茶店やスーパーに出かけるなどしている。	利用者全員が村内から入居していることもあり、利用者の中には、認知症カフェ等の機会を通じて、入居前からの方との交流に機会がつけられている。また、家族との外出も行われており、身内の方と過ごす機会がつけられている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	孤立しそうなご利用者に仲の良い利用者から話しかけてもらったりする支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後もご家族・ご本人と良好な関係が築けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	随時、ホーム内でご本人より聞き取り把握し反映させている。	1ユニットホームである利点も活かしながら、ホームでは日常的に職員間で利用者に関する意向等の把握と共有が行われている。また、定期的なカンファレンスも行われており、利用者や家族に関する意向等の検討が行われており、日常の支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所前に詳しく聞き取り、ホームでの生活に反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々、職員が観察して気付いた点などは記録し現状を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	月1回の職員会議で各職員より対象の利用者についてサービス内容の見直し等の意見を聞き反映させている。	介護計画については、6か月を基本に見直しが行われており、利用者の状態変化等に合わせた対応が行われている。職員間で支援内容に関する共有を行いながら、計画作成担当者を兼務している管理者を通じて、定期的なモニタリングを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ご利用者の日々の様子はケア記録に記録し、重要な点は申し送りで全職員が確認できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ホームにないサービスでもご利用者が希望されれば法人内で受けられるサービスも導入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	特にご家族に協力を仰ぎ支援している。地域包括支援センターにも協力してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	直ぐ近くに主治医がおり、定期的に往診もある。	運営母体の医療機関がホームの近隣に開設していることもあり、医療面での定期的及び随時の支援が行われており、健康状態に合わせた受診支援も行われている。また、看護師を通じた医療面での支援や協力医との連携が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師の定期的な訪問があり、怪我の処置等もしてもらっている。また24時間オンコール体制もできている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は利用者の看護サマリーや主治医の紹介状を提出するなど、医療機関でスムーズに治療が受けられるように協力している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご利用者が重度化した場合や終末期になられた時の対応方法は職員で話し合い共有している。	身体状態が重い方もホームでの生活を継続できるように支援が行われており、ホームでの看取り支援も行われている。当ホームの隣りの場所に関連事業所の老健があり、利用者の中には老健に移行する方もあり、利用者の様々な状況に対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	AEDの設置はあるが、定期的な訓練ができていないので今後実施していく予定。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練、防災訓練を年に2回実施している。	年2回の避難訓練を実施しており、夜間を想定した訓練や通報装置の確認等も行われている。水害が想定される地域でもあり、隣りの老健に避難することができるようにスロープの設置が行われている。関連の老健と合わせて備蓄品の確保が行われている。	非常災害の取り組みについては、運営推進会議を通じても行われており、関係者との災害に関する情報交換等につなげている。ホームの継続的な取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご利用者に対して年上の尊敬すべき対象とした声掛けを心掛けている。	ホームの基本理念でもある「笑顔と思いやり心」を職員による利用者への支援の基本に考えながら、管理者が気になった際には、注意喚起等が行われている。利用者の自尊心にも配慮しながら、職員の接遇にもつなげる取り組みも行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の意思を尊重した声掛けを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	なるべく個々のご利用者のペースに沿った介護を実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	衣類などは本人と一緒に買い物に行って本人に選んでいただいたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	なるべく出来る事はやっていただく様食事の支援をしている。	食事については、関連事業所の厨房から提供を受けており、利用者の身体状態に合わせた食事形態の対応も行われている。おやつ作りや食事レクの取り組みも行われており、利用者でもできることに参加する等、楽しみにつなげている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量や水分摂取量を毎食ごとにチェックしてご利用者の状態を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	ご利用者に合わせた口腔ケアが出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	なるべくオムツは使用しないようにし、トイレでの排泄で支援している。	利用者の排泄記録を表にも残しており、職員間で情報交換等を行いながら、一人ひとりに合わせた排泄支援につなげている。トイレでの排泄を基本に、医師、看護師とも連携した排泄に関する医療面での支援も行い、排泄状態の維持、改善につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	定期的に牛乳を摂取してもらったり個々に合わせた運動(歩行)にも取り組んでもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	入浴日や時間はこちらで決めさせていただいている。	利用者が週2回の入浴ができるように支援が行われており、入浴を拒む方にも声かけを行いながら定期的な入浴が行われている。浴室内に特殊浴槽と機械浴が設置されており、利用者の身体状態に合わせた対応も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	昼寝の時間を設けたり、冷え性の人にはアンカを使用したりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬チェック表に用法・用量と目的は明記し、職員に確認できるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個々の利用者に合わせた支援を実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	喫茶店や買い物に定期的に出かけている。	利用者の外出が困難な状況が続いていたが、今年度に入り徐々に制限を緩和しており、可能な範囲で利用者の外出の機会をつくっている。近隣の喫茶店に出かけたり関連事業所の行事に参加する等、徐々に外出の機会を増やす取り組みが行われている。	利用者の外出が徐々に増えていることもあるため、今後に向けて、季節等にも合わせた外出行事等、利用者の外出の機会が増えることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	財布をご自分で管理している利用者もみえる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	なるべくご本人の希望に沿って電話連絡させていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	大きな窓、照明で明るい空間が提供でき、季節の飾りつけをして快適に生活していただけにしている。	ホーム内は広めの空間が確保されていることもあり、利用者が毎日の生活をゆったりと過ごすことができる生活環境がつけられている。リビングや通路の壁面には、利用者の作品や写真等の掲示が行われており、アットホームな雰囲気づくりが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファーや畳で過ごしたり、席を移動したりして自由に過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れたものやなじみのある物品を持ち込んでいただいで生活しておられる。	居室には、利用者や家族の意向等にも合わせた家具類や好みの物等の持ち込みが行われており、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、居室内にベッドが備え付けられてあり、全員の方がベッドで生活している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室が分かりにくいご利用者には名前を大きく掲示したり、トイレも分かりやすいように掲示している。		